

## はじめに

土木学会関西支部では、1990年度よりフォーラムシビルコスモス(FCC)の活動を行ってきており、21世紀に向かう土木界のあるべき姿を創造的に考えると共に、土木に関わる情報の発信の場として社会との関わりを模索し、新たな展開を目指しております。

このFCC活動を行ってきた数名のメンバーによって、「21世紀の成熟社会における社会基盤整備に際して、現役を退いた土木技術者—すなわちシビルベテランズ(Civil Veterans:CV)—の活用」が構想されました。

1996年8月に、この趣旨に賛同した10数名で、この構想の検討がスタートし、その議論の中で、ボランティア活動も視野に入れる方向性を見だし、「シビルベテランズ & ボランティアズ(CVV)」として構想を発展させました。

1998年夏に、この構想について現役を退いた土木技術者を対象にしてアンケートを実施し、10月にフォーラムを開催して、CVVに関心のある方の参加を得て、建設的なご意見を多数いただきました。

このような経過から、いよいよCVV活動を開始する時期が到来したと考え、つぎの3グループで、シビルベテランズ&ボランティアズを発足することに致しました。

### 「まちづくり・地元相談事グループ」

「まちづくり」を考えるうえで、住民やまちづくりを考える人たちにとって専門的なことがわからなくて困る場合があります。また、住民と行政の間で調整すべきことも、しばしば起こります。

まちづくりに取り組みたいと考えても、最初に何をすればわからない場合があると思います。あるいは行政の計画が、住民にとっては不都合な場合もあります。それに対して住民からの対案が必要になる場合もあります。行政にとっても住民に誤解なくまちづくりの内容を伝える方法を模索する場合もあるでしょう。

こうした場合に、経験豊かな専門的技術者の立場から、土木技術やまちづくりに関する知識や豊富な経験を活用して、まちづくりを考える方々に対して相談ののり適切なアドバイスを行い、あるいはアドバイスできるネットワークを構築するのが、このグループの活動です。

これまで蓄積されてきた経験と技術と知識とネットワークを、仕事ではなく「まちづくり道楽」というボランティアで次世代のまちづくりのために活動に生かしていくと、ご関心ある方々のご参加を期待しています。

### 「建設中のトラブル・技術伝承のグループ」

技術の高度化・細分化は止めようのない流れですが、その技術情報は縦にも横にもなかなか流れにくいものです。特に表に現れにくい建設中のトラブルの解決策などについては記録には残らず、ベテラン技術者の記憶の中に留め置かれるようです。

若い技術者が同じようなトラブルに悩んでいるとしたら、あなたの経験が生かせるかも知れません。また、事業について、事業者(官庁など)と住民との意見が相違して、トラブルとなることもあります。その際、事業者の専門的な説明を住民の方が理解するための翻訳役もいるのではないのでしょうか。同時に、そのようなノウハウを何らかの形にして残しておけば、誰かが活用してくれるでしょう。

あなたの技術体験を若者と共有し、次代へ引き継ぐことができれば素晴らしいと思いませんか。

### 「防災のグループ」

今もなお生々しく記憶に残る阪神・淡路大震災、このとき得られた貴重な体験を無にしないように、いろいろな組織や人々がまちづくりに計画に活かそうと各方面で努力されております。

「防災」は、人任せにするのではなく、行政や特定の地域の人が知恵を絞ればよい、というものではありません。人任せにするのではなく、一人ひとりが常日頃それぞれの立場でなにができるのかを考え、協力しあってこそ非常時に真価が発揮できるのです。第一線を退いた土木技術者として例外ではありません。いやそれどころか、まちづくりのベテランとして活躍することが求められているのです。

震災の被害を目の当たりにしたときの驚きと無力感、長年培ってきた土木技術への自信の揺らぎ、そういったものを糧にボランティアしませんか。